

市民意識調査アンケート項目(案)

…第4次日野市行動計画目標指標(効果測定で必要)
 白抜き …市の取組を伺う項目(可能な限り集約)

No.	区分	項目	R1質問No	対応
1	属性	1 自認する性別	1	
		2 年齢	2	
		3 職業	4	
		4 婚姻状況	5・6	
		5 世帯構成	7	
		6 子の有無	8	
2	男女平等に関する意識について	7 アンコンシャス・バイアスの認知度	新規	
		8 夫婦の役割分担	9	④子どもは持った方がよい → ④夫婦は子どもを持つ方がよい に直す
		9 男女の地位の平等	10	
		10 防災分野で男女平等の視点を活かすために必要なこと	15	災害時女性が陥る困難としてどのようなものがあるかを具体的に例示
3	日頃の生活について	11 主に行っている家事などについて	11	
		12 家事、育児、介護に関わる1日当たりの従事時間	12	
		13 地域活動等への参加の有無	14	「育児」→「子育て」に直す
		14 不参加の理由	14-2	感染症(コロナ)に罹患したくないから という選択肢を追加
		15 男性が家事、育児、介護、地域活動をするために必要なこと	13	経済的理由 という選択肢を追加
4	仕事について	16 女性が職業を持つことに対する考え	16	選択項目の言い回しは「～方が良い」といった表現は控える
		17 →前問の理由	17	コロナ禍を経験したことで生き方や考え方が変わったから という選択肢を追加
		18 管理職以上に昇任したいか	20	
		19 →したくない理由	新規	
		20 女性が出産後同じ職場で働き続けるために必要なこと	21	
		21 政策の企画や方針決定に関わる役割に女性があまり進出していない理由	22	
		22 女性リーダーが増えることの影響	23	
23 女性リーダーを増やす際の障壁	24			
5	仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について	24 ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度	26	
		25 育児休業、介護休業制度の利用状況	18	
		26 →利用していない理由	18-1	
		27 育児休業、介護休業制度を利用しやすくするために必要なこと	19	
		28 ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと	27	
6	性的マイノリティに関することについて	29 性の在り方などに関する悩みの有無	28	
		30 →有の場合、相談したか	28-2	
		31 →相談した場合、その相談先	28-2-1	
		32 →相談しなかった場合、その理由	28-2-2	
		33 カミングアウトされた場合、変わらずに接することができるか	29	
		34 パートナーシップ制度の拡充について(ファミリーシップ制度、事実婚の在り方、家族の在り方等の関係性を証明する制度が必要か)	新規	
7	DV防止法、女性支援法等に関することについて	35 (法律の説明を記載)女性支援法の認知度	新規	
		36 相談窓口の認知度(女性相談、セーフティ、子家セン等)	新規	
		37 デートDVの認知度	新規	
		38 ハラスメントを受けたことの有無	35	・マタニティ・ハラスメント等 → マタニティ・ハラスメント/パタニティ・ハラスメント と直す ・モラル・ハラスメントを選択肢に追加
		39 配偶者、パートナー等からの暴力の経験の有無	31	
		40 →有の場合、相談したか	31-1	
		41 →相談した場合、その相談先	31-1-1	
42 →相談しなかった場合、その理由	32-1			
8	市が取り組むべきこと	43 男女平等社会の形成のため市が取り組むべきこと(性的マイノリティ施策、DV被害防止施策を含む)	30,32,37	・思考が散らからない設問順 ・現在実施している事業周知が図れる設問(カッコ書きで既存事業の名称を記載、市HPを案内等)
		44 包括的性教育	新規	他市の動きと合わせて検討
		45 日野市男女平等推進センター「ふらっと」の認知度と利用状況	新規	他市の動きと合わせて検討

問11、問12、問13はリンクしている。とりわけ問11と問13の結びつきが強い。3問全てを削除するか、問12を残すかのどちらか。
 →問12が効果測定に必要なため、全て残す

「育児」を「子育て」に変更することでより広い範囲を対象にすることができる。

男性の意識改革の意味合いもあると思われるため、残した方がよい。この設問は「男性」を取り上げている事が大事であるため、そのことを念頭に置き内容を考えてほしい。
 →問11、問12との結びつきも考慮し、残す

選択項目の言い回しは「～方が良い」といった表現は控えるべき。また、この間に「困難女性支援法」や「DV防止法」の改正などもあり、次年度の施行も見据え、それらの視点を反映した選択項目の設定その他工夫が必要ではないか。

・実際に行っている事業を入れ込むことは良いと思う。
 ・市民意識調査は日野市がどれだけの事業を行っているのか、その認知度を計るといふ主旨もあるため、項目についてはそのことを念頭に考えてほしい。
 ・実際にあるものの認知度を問う方が設問の流れとしても良い。また選択項目が20個もあり、多すぎると思われる。
 ・前回実施した令和元年度からの5年間で増えたもの、充実したものの認知度も計る必要があるが、設問数が増えてしまうため、まとめられるものはまとめた方がよい。
 ・この第4次男女平等推進計画がどのような人に浸透しているかをアンケートから把握し、それを指標とした計画を策定していく。
 ・全体的な成果を問う項目はなるべくまとめていった方がよい。

包括的性教育については導入しないといけないと考えている。もし設問数を増やせないならば、アンコンシャス・バイアスの項目と入れ替えてもよいと思う。
 国の動きを待つのではなく、地方自治体から進めていくべきだと考えている。
 またふらっとの認知度について、どの市も男女平等推進センターの認知度の低さを課題としているところで、センターが男女共同参画の基点となりうるか、センターの役割を問う項目があっても良いかと思われる。